

## 小学校教師の体育授業実践に対する支援の検討 —実践状況と指導上の困難さに着目して—

宮尾 夏姫<sup>1)</sup> 三木 ひろみ<sup>2)</sup>

### An Examination of the Way of Supporting Elementary School Teachers to Teach Physical Education; Focusing on the State of Their Implementation and Perceived Difficulties

Natsuki MIYAO, Hiromi MIKI

#### Abstract

There are very few elementary school teachers specialized in physical education. For the purpose of clarifying the characteristics of elementary school teachers who should be supported to teach PE, we conducted a questionnaire survey asking 102 elementary school teachers about their attitude towards PE, state of implementation and difficulties of teaching PE.

The findings showed that the teachers who felt not good at teaching PE were not characterized by age and years of teaching experience and they had a positive attitude towards exercise and physical education, and perceived the importance of PE and knowledge about PE classes more than those who were not certain if they were good at PE. As the previous study mentioned, female teachers tended to feel not good at PE and had less positive attitude towards physical activity than male teachers. There were weak but significant correlations found between the frequency of implementation of some educational activities necessary during PE classes and the difficulty perceived by the teachers.

It was concluded that teachers who have less concerns about PE and are not sure if they are good at PE should also be encouraged and supported. It was suggested that clarifying educational activities teachers perceived difficult during a PE class and explaining the importance of the educational activities to the teachers are important to support the teachers to teach PE classes.

Key words : elementary school teachers, teach physical education,  
difficulties of teaching PE, implementation of teaching activities

キーワード：小学校教師，体育授業実践，指導上の困難さ，実践状況

## 1. はじめに

児童の運動離れや体力低下を受け、文部科学省中央教育審議会は、子どもの体力向上のための総合的な方策への答申において「小学校では、地域や学校の実情に応じて体育専科教員の配置に積極的に取り組むことが期待される(文部科学省, 2002)」と提言した。しかし、小学校教員の中で中学校・高等学校の保健体育教員免許を所有する教師の割合は、わずか6.9%(男10.2%, 女4.9%)と極めて少なく(文部科学省, 2010)、専科教員を配置している小学校は、いまだ3.38%にとどまっておらず、外部指導員も8.5%の学校にしか活用されていない(文部科学省, 2013)。

これまで多くの先行研究によって、小学校教師が体育授業を初等教育において重要な教科として捉え、その必要性も理解していることが明らかになっている(例えば、大友・群馬県小学校研究会調査委員会, 2006; 小内河ほか, 1999)。一方で、特別に指導の難しい教科だとは感じていないものの、「教科の特性ともいうべき指導上の独特の困難性」があり(下條ほか, 1996)、教科の特性や理解、何を教えるのか、どのように教えるのかについてあまり自信がないことも示唆されている(小内河ほか, 1999; 大友・群馬県小学校研究会調査委員会, 2006; 庭木ほか, 1994)。加登本ほか(2010)は、小学校教師が抱えている体育授業の悩み事について調査した結果、「ニーズ」や「把握」、「示範」や「教材選択」などの体育授業の「内容的条件」(高橋, 1992)に含まれる事項に悩みを感じており、女性教師は、体育指導に関する多くの事項に対し悩みを感じていることが分かった。同様に庭木ほか(1994)の調査においても、女性教師は男性教師に比べ運動技能に苦手意識を持ち、統率力、体育の価値志向性、指導や教材といった項目で自己評価が低いことが報告されており、女性教師の体育への愛好度

や価値志向性の向上が望まれている。

こうした状況をうけて、小学校において体育授業の質を保証していくためには、現職小学校教師の知識や教授技術の獲得といった体育授業の専門性を高めること、もしくは専門性がなくとも授業成果を保証できるように支援することが求められる。前者については、小学校教師の授業力量獲得・向上のための支援として、教職経験年数ごとの研修や校内研修の重要性が指摘されている(文部科学省, 2012; 加登本ほか, 2011; 木原, 2011)。後者に関する取り組みとして文部科学省は、平成20年の学習指導要領改訂の後、さまざまな教員の指導用資料を作成・発行している。また、各自治体の教育委員会もホームページ等に様々な資料を提示し、教員の体育授業充実に向け積極的に取り組んでいる([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/jyujitsu/1330884.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1330884.htm))。白旗(2013)は、文部科学省が提供している指導用資料の活用状況と活用を左右する要因について調査した結果、女性や教員年数の浅い教師、体育指導を不得意とする教師は、実践的で即時性のあるものを求めていること、「体育部に所属していない→文部科学省発行資料や情報が手に届きにくい→体育の指導が最も不得意」という負のスパイラルが、大きな課題となってくることを述べている。

こうした先行研究から、経験年数の浅い教師や女性教師、体育指導を不得意とする教師を支援の対象とする必要性は明らかであるといえる。しかし、これらの教師が実際にどのような授業を行っているのか、どのようなことに難しさを感じているのかには十分に明らかにされていない。そこで、本研究では、小学校教師の体育授業実践をどのように支援すればよいかを検討するために、体育授業に対する教師の苦手意識と、苦手意識を持った教師が体育授業を行う上で必要だとされる教育活動をどこまで実施しているのか、どのようなことに難しさを感じているのかを調査し、

支援の対象となる教師の特性と支援の必要な事柄について明らかにすることを目的とする。

## 2. 方法

### 2-1. 質問調査票の作成

質問項目を作成するにあたっては、中井・澤田(2007)が作成した、「授業前に必要な教師の能力」、「授業中に必要な教師の能力」、「教師自身に関すること」の3次元61項目から構成される「自己診断表」、高橋ほか(1996)が作成した「授業観察チェックリスト」、土田・林(2005)が小学校教師の抱えている理科授業に対する苦手意識とその背景となる要因を探るために作成した「理科授業の経験」、「理科授業を行うことの得意・苦手意識」、「興味・関心」、「理科授業に対する印象」、「理科授業の必要性、専門知識の必要性」で構成される「理科への興味・関心について」の質問紙、大友・群馬県小学校体育研究会調査員会(2006)が、日野ほか(1996)を参考に作成した「体育指導及び運動に関する教師の意識」、「体育指導に関する教師の指導上の留意点」、「体育指導に関する教師の自己評価」で構成される質問紙を参照した。

また、質問項目を作成した後に体育科教育学を専攻する大学院生12名と小学校教諭5名に質問紙に回答してもらい、質問の意図を確認するインタビューを行った上で、修正を加え作成した。

### 2-2. 調査対象および調査期間

調査は、平成21年3月17日から平成21年5月14日にかけて実施した。茨城県、埼玉県、千葉県、長野県の小学校8校に質問紙を送付し、体育主任あるいは学校長を通じて同校の教師に配布した。調査にあたっては、調査対象校の小学校の学校長及び体育主任に、本研究の趣旨を説明し、調査への協力を依頼した。調査への協力を承諾してくれた調査対象校の体育主任あるいは学校長に質問紙調査票を送付し、各教師への配布と回収を依頼し

た。また、調査対象者に対しては調査票の冒頭で、回答は研究目的のみに使用し、回答はすべて数値化され集計し統計処理されることを説明した。回答者は、回答後、本研究者以外の目に触れることがないように調査票を添付の封筒に入れ、封をして提出した。106名から調査票が返送され、回答に不備のあった4名を除き、102名を分析の対象とした。回答は全て数値化し集計した。統計処理には、SPSSver17.0を用いた。

## 3. 結果および考察

### 3-1. 調査対象者の属性

表1は調査対象者の性別及び年代の割合を示している。女性教師の割合が多く(61.8%)、年齢構成では、20代が少なく(16%)40代が多かった(36%)。これらの傾向は、平成19年度及び平成22年度の学校教員調査統計に示されている全国的な小学校教師の年齢構成の傾向を反映していた。教職歴の平均は、17.7(±10.5)年であった。また、教員免許が小学校のみの教師は、全体の35.6%であり、保健体育科の免許を所有している教師は、調査対象者102名のうち、10名(10%)であった。

表1. 調査対象者の性別と年齢 (n=102)

性別/年代	20代	30代	40代	50代	総計
女	10 (15.9%)	15 (23.8%)	19 (30.2%)	19 (30.2%)	63 (61.8%)
男	7 (20.0%)	7 (20.0%)	15 (42.9%)	6 (17.1%)	35 (34.3%)
未記入	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (75.0%)	1 (25.0%)	4 (3.9%)
総計	17 (16.7%)	22 (21.6%)	37 (36.3%)	26 (25.5%)	102 (100%)

単位；人

### 3-2. 体育授業・運動に対する態度と苦手意識の性差

表2に示した8項目の質問に対して「最もあてはまる(5点)」から「あてはまらない(1点)」の5段階で回答してもらった結果、「体育は大切な教科である」「専門的な知識が必要である」を除き、6項目に有意な性差がみられた。男女とも、体育を重要な教科として専門的知識の必要性を感じていたが、女性

教師の方が運動に対する愛好度や研修への参加度が低く、体育授業に対する苦手意識が強く、体育専科に授業をしてほしいと感じていることがわかった。こうした結果は、先行研究と同様の結果であり、女性教師の体育・運動に対する意識を高め、苦手意識を軽減させる支援が必要であると考え。

表2. 運動に対する態度・意識の男女比較 (n=98)

	男性(n=35)		女性(n=63)		t値
	m	SD	m	SD	
運動をするのが好き	4.54	0.65	3.71	1.02	4.870 ***
運動を見るのが好き	4.49	0.81	3.95	0.85	3.015 **
運動をするのが得意	3.66	0.96	2.90	0.99	3.620 ***
体育授業をするのが苦手	2.20	0.99	2.60	0.85	-2.112 *
体育専科に授業してほしい	1.83	1.24	2.87	1.46	-3.560 **
体育は大切な教科	4.66	0.59	4.65	0.54	0.054 n.s.
専門知識が必要	4.03	0.98	4.03	0.74	0.052 n.s.
研修への参加	3.09	1.31	2.25	0.93	3.642 ***

有意水準 \*: $p<.05$  \*\*: $p<.01$  \*\*\*: $p<.001$

### 3-3. 体育授業の実践状況と難しさの性差

体育授業を計画する段階で必要だと思われる事項8項目、実施する段階で必要だと思われる事項9項目に対し、「いつもやっている(5点)」から「ほとんどやっていない(1点)」の5段階で回答してもらった。表3に

示されているように、男性教師の方が授業前に「授業計画を立てる」ことがわかったが、その他は体育授業に必要なだとされる項目の実施状況に性差はみられなかった。また、これらを実施することの難しさについて、「非常に難しいと感じる(5)」から「ほとんど感じない(1)」の5段階で回答してもらった結果、表4に示すように、女性教師の方が授業中に「できるための説明」を難しいと感じていたが、その他には性差はみられなかった。

以上の結果から、体育授業に必要な活動の実践状況や実施の難しさには大きな性差はみられなかった。

### 3-4. 体育授業に対する苦手意識を持つ教師の特徴

#### (1) 年齢

「体育授業をするのが苦手」という項目に対して、「最もあてはまる」「あてはまる」と回答した教師を「苦手」群とし、「どちらともいえない」と回答した教師を「どちらともいえない」群、「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した教師を「苦

表3. 体育授業の実践状況の男女比較 (n=98)

項目	男性(n=35)		女性(n=63)		t値	
	m	SD	m	SD		
授業計画・準備段階	1 授業計画をたてる	3.97	0.89	3.54	0.96	2.181 *
	2 児童の能力を把握する	3.83	1.09	3.49	0.91	1.624 n.s.
	3 達成目標を設定する	4.06	0.90	3.78	0.83	1.543 n.s.
	4 教材や学習活動を工夫	3.94	0.80	3.73	0.72	1.342 n.s.
	5 指導方法や教え方を工夫	4.14	0.77	3.94	0.61	1.357 n.s.
	6 学習カードの作成	3.34	1.13	3.37	1.02	-0.099 n.s.
	7 学習資料の作成	3.00	0.97	2.63	1.09	1.643 n.s.
	8 評価方法の設定	3.71	0.98	3.49	0.91	1.121 n.s.
授業実施段階	9 積極的相互作用	4.46	0.65	4.51	0.59	-0.391 n.s.
	10 わかりやすく説明	4.34	0.68	4.24	0.68	0.723 n.s.
	11 できるための説明	4.11	0.96	3.95	0.68	0.879 n.s.
	12 約束事を守らせる	4.51	0.74	4.60	0.58	-0.655 n.s.
	13 テキパキと行動させる	4.51	0.65	4.52	0.61	-0.071 n.s.
	14 運動量の確保	4.43	0.73	4.33	0.67	0.649 n.s.
	15 学習成果の確認	3.97	0.98	3.90	0.66	0.399 n.s.
	16 児童同士の関りの促し	4.26	0.91	4.37	0.60	-0.624 n.s.
	17 学習カードの活用	3.54	1.12	3.38	0.97	0.747 n.s.

有意水準 †: $.05<p<.10$  \*: $p<.05$  \*\*: $p<.01$

表 4. 体育授業の困難さの男女比較 (n=98)

項目	男性(n=35)		女性(n=63)		t値	
	m	SD	m	SD		
授 業 計 画 ・ 準 備 段 階	1 学習計画を立てる	3.09	0.98	3.32	0.85	-1.216 n.s.
	2 児童の能力を把握	3.11	0.93	2.98	1.00	0.629 n.s.
	3 達成目標の設定	3.03	0.95	3.11	0.95	-0.411 n.s.
	4 教材や学習活動の工夫	3.34	1.08	3.67	0.84	-1.530 n.s.
	5 指導方法や教え方の工夫	3.26	1.06	3.60	0.81	-1.668 n.s.
	6 学習カードの作成	3.00	1.00	3.10	0.89	-0.485 n.s.
	7 学習資料の作成	3.17	1.01	3.49	0.91	-1.600 n.s.
	8 評価方法の設定	3.34	1.02	3.30	0.92	0.203 n.s.
授 業 実 施 段 階	9 教室以外での授業	1.83	1.09	1.84	0.97	-0.059 n.s.
	10 積極的相互作用	1.54	0.74	1.75	0.95	-1.093 n.s.
	11 わかりやすく説明	2.11	0.86	2.46	1.14	-1.681 †
	12 できるための説明	2.60	1.14	3.30	1.04	-3.086 **
	13 約束ごとを守らせること	2.14	1.06	2.32	0.98	-0.820 n.s.
	14 テキパキと行動させること	2.31	1.05	2.38	0.97	-0.316 n.s.
	15 運動量の確保	2.71	1.10	2.57	1.04	0.637 n.s.
	16 学習成果の確認	2.83	1.07	2.89	0.95	-0.287 n.s.
	17 児童同士の関りの促し	2.57	0.97	2.48	0.96	0.466 n.s.
	18 学習カードの活用と成果の確認	2.94	1.05	2.86	0.99	0.399 n.s.

有意水準 †:0.05<p<.10 \*:p<.05 \*\*:p<.01

手でない」群として、3群に分類した。表5と図1は、各群の年代構成を示している。人数の偏りについて $\chi^2$ 検定を行った結果、有意性は認められなかった。大友ほか(2007)は、新任教師と女性教師に体育の苦手な教師が多いと考え、こうした教師を支援するために「体育授業プログラム」を開発した。本研

究の結果から、女性教師の方が男性よりも体育授業に対する苦手意識が強いことは分かったが、新任教師にはこの傾向はみとめられなかった。また、「苦手である」と回答した11名の中には保健体育の教員免許を持ち、体育主任の経験が15年ある者もみられ、体育授業実践の難しさを知っているからこそ苦手意識を感じている教師もいる可能性が示唆された。

(2) 体育と運動に対する愛好的態度

表6は、体育が「苦手」な教師、「苦手でない」教師、「どちらともいえない」教師の体育授業・運動に対する態度と意識の得点の平均と標準偏差を示している。5段階評価の全体の平均値から、「運動をすること(平均4.00)」「運動を見ること(平均4.14)」が好きであり、「体育は大切な教科(平均4.66)」としてとらえている。しかし、体育に関する研修へ参加は積極的とは言えず(平均2.55)、「体育研修への参加は体育を専門とする教師や、体育への関心の高い教師には積極的に活用されているが、それ以外の教師にはほとんど活用されていない(大友・群馬県小学校体育研究会調

表 5. 苦手意識と年代の分布 (n=102)

	20代	30代	40代	50代	総計
苦手	5 (29.4%)	2 (9.1%)	2 (5.4%)	2 (7.7%)	11 (10.8%)
どちらともいえない	5 (29.4%)	7 (31.8%)	15 (40.5%)	13 (50.0%)	40 (39.2%)
苦手ではない	7 (41.2%)	13 (59.1%)	20 (54.1%)	11 (42.3%)	51 (50.0%)
計	17 (16.7%)	22 (21.8%)	37 (36.3%)	26 (25.5%)	102 (100%)

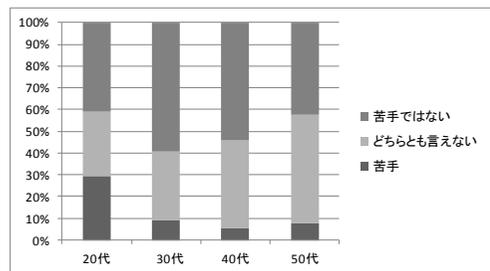


図 1. 苦手意識と年代の分布 (n=102)

査委員会, 2006)」という先行研究を追従する結果となった。

3群間を比較するため、一要因分散分析を行い、有意な主効果がみられた場合には多重比較を行った結果、「運動をすることが好き」(F (2,99) =3.896, p<.05), 「運動を見るのが好き」(F (2,99) =7.525, p<.01), 「運動をすることが得意である」(F (2,99) =4.698, p<.05), 「体育は大切な教科である」(F (2,99) =3.794, p<.05), 「研修へ積極的に参加している」(F (2,99) =3.542, p<.05), の項目において有意な主効果がみられた。多重比較の結果、体育が「苦手ではない」群が、「どちらともいえない」群よりも得点が有意に高かった。「運動を見るのが好きである」については、体育が「苦手ではない」群と「苦手」な群の間にも有意差が見られたが、いずれの項目においても、「どちらともいえない」教師の得点が最も低かった。また、「どちらともいえない」群は、「苦手でない」群よりも「体育専科に授業をしてほしい」(F (2,99) =3.685, p<.05) と思っていることも分かった。

以上の結果から、体育や運動に対する愛好的態度については、体育を苦手だと感じている教師よりも、「どちらともいえない」教師と「苦手でない」教師との間に有意な隔りがあることが分かった。苦手だという意識がある教師は、その意識があるために機会や支援があれば苦手意識を克服できる可能性があるが、苦手だという意識も得意だという意識もない教師については、問題を感じていないた

めに、支援を受ける機会があっても、自分にはその必要がないと判断して支援を受けようとしめない可能性がある。自ら問題意識を感じていない「どちらともいえない」教師に対するアプローチを検討する必要があると考える。

### (3) 体育授業の実践状況

表7は、体育が「苦手」な教師、「苦手でない」教師、「どちらともいえない」教師の教育活動の実施状況を示している。体育授業計画段階で必要だと思われる8項目、授業中に必要と思われる9項目について、「いつもやっている(5点)」から「ほとんどやっていない(1点)」の5段階で回答してもらい、3群それぞれの平均値と標準偏差を算出した。それぞれの項目で3群間の実践状況に違いがあるか比較するため、3群間で一要因分散分析を行い、有意な主効果がみられた場合には多重比較を行った。

その結果、授業計画・準備段階では、「授業計画を立てる」(F (2,100) =5.525, p<.01), 「児童の能力を把握する」(F (2,100) =5.512, p<.01), 「達成目標を設定すること」(F (2,100) =4.017, p<.05), 「教材や学習活動を工夫する」(F (2,100) =6.859, p<.01), 「指導方法や教え方を工夫する」(F (2,100) =4.223, p<.05) ことについては、体育が「苦手でない」群と「どちらともいえない」群の間に有意差がみとめられ、体育が「苦手でない」群の方が、「どちらともいえない」群よりもこれらの活動を積極的に行っていた。「学習カードの作成」(F (2,100) =3.609, p<.05), 「学習

表6. 苦手意識と運動に対する態度・意識の関係 (n=102)

項目	全体(n=102)		1		2		3		F値	多重比較
			苦手(n=11)		どちらともいえない(n=40)		苦手ではない(n=51)			
	m	SD	m	SD	m	SD	m	SD		
運動をするのが好き	4.00	0.97	3.91	1.04	3.70	0.97	4.25	0.91	3.896 *	3>2*
運動を見るのが好き	4.14	0.87	3.82	0.87	3.83	0.93	4.45	0.70	7.525 **	3>2**, 3>1†
運動をすることが得意	3.18	1.04	3.09	1.04	2.83	0.84	3.47	1.10	4.698 *	3>2**
体育専科に授業してほしい	2.46	1.46	2.82	1.33	2.85	1.35	2.08	1.49	3.685 *	2>3*
体育は大切な教科	4.66	0.55	4.73	0.47	4.48	0.60	4.78	0.50	3.794 *	3>2*
専門知識が必要	4.03	0.83	4.18	0.60	4.05	0.75	3.98	0.93	0.285 n.s.	
研修への参加	2.55	1.15	2.18	0.87	2.28	0.91	2.84	1.30	3.542 *	3>2*

有意水準 †:05<p<.10 \*:p<.05 \*\*:p<.01

資料の作成」(F (2,100) =3.331, p<.10) については、体育が「苦手ではない」群と「苦手」な群の得点に有意差あるいは有意傾向がみとめられ、体育が「苦手ではない」群の方がこれらの活動を積極的に行っていた。

授業中の教育活動については、「学習成果の確認」(F (2,100) =4.109, p<.05) は、「苦手ではない」群の方が「苦手」な群よりも有意に実施していた。さらに「苦手」な群は、「学習カードの活用」(F (2,100) =7.558, p<.01) を、「苦手ではない」群「どちらとも言えない」群よりも実施していなかった。

授業中の「積極的な相互作用」(F (2,100) =6.070, p<.01), 「わかりやすく説明すること」(F (2,99) =3.978, p<.05), 「約束事を守らせる」(F (2,100) =3.861, p<.05), 「テキパキと行動させる」(F (2,100) =2.627, p<.10) については、「苦手ではない」群と「どちらとも言えない」群の間に有意差あるいは有意傾向がみとめられ、「苦手ではない」群の方がこれらの活動を積極的に行っていた。

以上の結果から、苦手意識のある教師は、学習カードや学習資料の作成・活用、学習成果の確認については消極的であるが、その他

の活動の実施状況については顕著な問題はみられなかった。「どちらとも言えない」教師には、準備段階においては5項目、授業中の活動には4項目と、他の群に比べて実施状況が消極的な項目が多く見られた。

(4) 体育授業実践の難しさ

表8は、体育が「苦手」な教師、「苦手でない」教師、「どちらともいえない」教師が感じている教育活動の難しさを示している。体育授業計画・準備段階で必要だと考えられる8項目および授業実施段階で必要だと考えられる10項目の質問に「非常に難しいと感じる(5)」から「ほとんど感じない(1)」の5段階で回答してもらい、3群それぞれの平均点と標準偏差を算出した。また、3群を比較するため、一要因分散分析を行い、有意な主効果がみられた場合には多重比較を行った。

その結果、授業計画・準備段階に必要な活動については、3群の教師が感じている難しさに違いはなく、体育が苦手だと感じている教師が、他の教師より難しさを感じているわけではないことが示唆された。

授業実施段階の活動については、「教室以外での授業」において有意な主効果がみられ

表7. 体育授業の実践状況と苦手意識の関係 (n=102)

項目	全体(n=102)		1		2		3		F値	多重比較	
			苦手(n=11)		どちらともいえない(n=40)		苦手ではない(n=51)				
	m	SD	m	SD	m	SD	m	SD			
授業計画・準備段階	1 授業計画をたてる	3.69	0.98	3.64	0.92	3.33	1.02	3.98	0.88	5.415 **	2<3**
	2 児童の能力を把握する	3.64	0.99	3.64	0.50	3.28	0.88	3.92	1.07	5.143 **	2<3**
	3 達成目標を設定する	3.86	0.87	3.82	0.75	3.58	0.87	4.10	0.83	4.359 *	2<3*
	4 教材や学習活動を工夫	3.80	0.75	3.64	0.50	3.53	0.72	4.06	0.73	6.756 **	2<3**
	5 指導方法や教え方を工夫	4.00	0.67	4.00	0.63	3.78	0.70	4.18	0.62	4.220 *	2<3*
	6 学習カードの作成	3.32	1.05	2.55	0.93	3.38	1.03	3.45	1.05	3.589 *	1<3*
	7 学習資料の作成	2.75	1.06	2.18	0.75	2.63	1.00	2.96	1.11	2.981 †	1<3†
	8 評価方法の設定	3.55	0.95	3.18	1.25	3.55	0.88	3.63	0.94	0.994 n.s.	
授業実施段階	9 積極的相互作用	4.46	0.64	4.27	0.65	4.25	0.63	4.67	0.59	5.788 **	2<3**
	10 わかりやすく説明	4.25	0.68	4.27	0.47	4.03	0.62	4.43	0.73	4.201 *	2<3*
	11 できるための説明	3.98	0.80	4.18	0.60	3.78	0.66	4.10	0.90	2.300 n.s.	
	12 約束事を守らせる	4.56	0.64	4.36	0.67	4.40	0.67	4.73	0.57	3.676 *	2<3*
	13 テキパキと行動させる	4.47	0.69	4.36	0.67	4.30	0.65	4.63	0.69	2.808 †	2<3†
	14 運動量の確保	4.37	0.69	4.36	0.67	4.23	0.62	4.49	0.73	1.688 n.s.	
	15 学習成果の確認	3.90	0.79	3.36	0.92	3.85	0.80	4.06	0.70	3.853 *	1<3*
	16 児童同士の関りの促し	4.30	0.73	4.18	0.87	4.25	0.74	4.37	0.69	0.486 n.s.	
	17 学習カードの活用	3.41	1.02	2.36	0.67	3.60	0.93	3.49	1.03	7.524 **	1<2, 3**

有意水準 †:05<p<.10 \*p<.05 \*\*p<.01

(F (2,98) =3.450,  $p<.05$ ), 体育を「苦手」な群は他の群よりも「教室以外で授業」を行うことを難しいと感じていた。「わかりやすく説明すること」(F (2,101) =3.879,  $p<.05$ ), 「児童同士のかかわりを促すこと」(F (2,101) =2.518,  $.05<p<.10$ ) については、「どちらとも言えない」群と「苦手」群との間に有意差あるいは有意傾向がみとめられ、「どちらとも言えない」群の方が、これらの活動を難しいと感じていた。

以上の結果から、体育授業に必要な様々な教育活動について、教師を感じる難しさには、苦手意識による違いはあまりみられなかった。つまり、体育を苦手と感じている教師は、体育授業に必要な活動をより難しく感じているために苦手だと感じているわけではないと言える。また、体育を苦手だと感じている教師群よりも、「どちらとも言えない」群と「苦手ではない」群との間に多く差がみられたことから、「どちらとも言えない」教師の中に、より難しさを感じている教師が多いことがわかり、支援の対象として検討していく必要性が示唆された。

### 3-5. 授業実践状況と難しさの関係

ここでは、体育授業での教育活動の実践状況と難しさの感じ方に関係があるかについて述べる。授業計画段階に必要なと考えられる8項目、授業実施段階に必要なと考えられる9項目について、「いつもやっている(5点)」から「ほとんどやっていない(1点)」の5段階で、難しさについては「非常に難しいと感じる(5点)」から「ほとんど感じない(1点)」の5段階で回答してもらい、項目ごとに平均点と標準偏差を算出し、活動の実践状況と難しさの得点の相関係数を算出し、表9に示した。

その結果、授業準備段階では、「授業計画を立てる」( $r=-0.244$ ,  $p<.05$ ), 実施段階では「積極的相互作用」( $r=-0.401$ ,  $p<.01$ ), 「わかりやすく説明する」( $r=-0.341$ ,  $p<.01$ ), 「できるための説明」( $r=-0.246$ ,  $p<.05$ ), 「約束事を守らせる」( $r=-0.290$ ,  $p<.01$ ), 「テキパキ行動させる」( $r=-0.323$ ,  $p<.01$ ), 「運動量の確保」( $r=-0.465$ ,  $p<.01$ ), 「学習成果の確認」( $r=-0.348$ ,  $p<.01$ ), 「児童同士のかかわりを促す」( $r=-0.330$ ,  $p<.01$ ), 「学習カードの活用」( $r=-0.249$ ,  $p<.05$ ) において、有意

表8. 体育授業実践の難しさと苦手意識の関係 (n=102)

項目	全体(n=102)		1 苦手(n=11)		2 どちらとも言いえない(n=40)		3 苦手ではない(n=51)		F値	多重比較	
	m	SD	m	SD	m	SD	m	SD			
授業 計画 ・ 準備 段階	1 学習計画を立てる	3.24	0.92	3.27	0.79	3.30	0.94	3.18	0.95	0.207	n.s.
	2 児童の能力を把握	3.03	0.97	2.91	0.94	3.28	0.85	2.86	1.04	2.171	n.s.
	3 達成目標の設定	3.09	0.93	3.18	0.87	3.20	0.82	2.98	1.03	0.676	n.s.
	4 教材や学習活動の工夫	3.56	0.93	3.64	0.92	3.65	0.80	3.47	1.03	0.456	n.s.
	5 指導方法や教え方の工夫	3.47	0.92	3.73	0.90	3.55	0.88	3.35	0.96	0.995	n.s.
	6 学習カードの作成	3.09	0.93	2.91	0.83	3.23	0.83	3.02	1.03	0.764	n.s.
	7 学習資料の作成	3.39	0.96	3.27	0.90	3.58	0.87	3.27	1.02	1.208	n.s.
	8 評価方法の設定	3.34	0.96	3.27	0.90	3.40	0.90	3.31	1.03	0.122	n.s.
	9 教室以外での授業	1.83	1.01	2.27	1.27	2.03	0.92	1.59	0.96	3.450	* 2>1, 3†
授 業 実 施 段 階	10 積極的相互作用	1.68	0.88	1.82	1.17	1.78	0.83	1.57	0.85	0.772	n.s.
	11 わかりやすく説明	2.33	1.05	2.18	1.08	2.73	0.93	2.06	1.05	5.043	** 2>3**
	12 できるための説明	3.04	1.11	3.18	1.25	3.28	1.04	2.82	1.11	2.005	n.s.
	13 約束ごとを守らせること	2.25	0.99	2.55	1.04	2.23	0.83	2.22	1.10	0.525	n.s.
	14 テキパキと行動させること	2.35	0.98	2.45	0.69	2.45	0.88	2.25	1.11	0.504	n.s.
	15 運動量の確保	2.61	1.05	2.73	1.27	2.75	0.98	2.47	1.06	0.864	n.s.
	16 学習成果の確認	2.87	0.98	3.18	0.98	2.98	0.86	2.73	1.06	1.345	n.s.
	17 児童同士の関りの促し	2.52	0.95	2.64	0.92	2.75	0.84	2.31	1.01	2.523	† 2>3†
	18 学習カードの活用と成果の確認	2.91	1.03	3.27	1.19	2.88	0.94	2.86	1.06	0.762	n.s.

有意水準 †:05<p<.10 \*p<.05 \*\*p<.01

な負の弱い相関がみられた。

これらの結果から、授業の準備段階で必要な活動については、活動の難しさと実施状況の間には関係が認められないこと、授業中の活動については、教師がその活動を難しいと感じているほど実施に消極的になる傾向があることが分かった。準備段階については活動の実施を妨げている他の要因について検討する必要があること、授業中の活動については教師が難しいと感じている活動を支援することによって実施を促す必要性があることが示唆された。

#### 4. まとめ

本研究では、体育授業に対する教師の苦手意識に着目し、体育授業が苦手だと感じている教師が、体育授業を行う上で必要とされる教育活動をどこまで実施しているのか、どのような活動に難しさを感じているのかを調査し、支援の対象となる教師の特性と支援の必要な内容について検討した。調査結果の概要は次の通りである。

まず、女性教師の方が、男性教師に比べ苦手意識が強いことは先行研究同様に示唆され

たが、体育授業に対する苦手意識をもつ小学校教師は、年代や教職経験年数では特定しづらいことがわかった。また、苦手意識を持つ教師も、運動や体育に対する愛好的態度を有しており、体育を大切な教科とし、専門的知識の必要性も感じている。体育授業において必要だとされる活動の実施状況や難しさの感じ方も、体育が「苦手ではない」教師との差は多くはみとめられなかった。一方、体育授業を行うことを「得意だとも苦手だとも感じていない」と回答した教師は、体育・運動に対する態度や意識が相対的に低く、さらには体育授業において必要だとされる活動の実施状況も消極的であった。こうした結果から、小学校における体育授業実践の支援を考える際には、先行研究で指摘されている女性教師に加え、体育授業に対して明確な問題意識を持っていない教師や関心や意識が低い教師にも着目する必要があると考える。

次に、体育授業実践における支援では、教師が難しいと感じることに加え、積極的に実施されていない活動を促すことも必要であることが示唆された。特に、学習資料や学習カードの作成・活用については、体育授業に対

表9. 体育授業の実践状況と困難さの関係 (n=102)

段階	項目	実践状況		困難さ		相関係数(r)
		m	SD	m	SD	
授業 準備 段階	授業計画をたてる	3.69	0.98	3.24	0.92	-.244*
	児童の能力を把握する	3.64	0.99	3.03	0.97	-.133 n.s.
	達成目標を設定する	3.86	0.87	3.09	0.93	-.034 n.s.
	教材や学習活動を工夫	3.80	0.75	3.56	0.93	-.141 n.s.
	指導方法や教え方を工夫	4.00	0.67	3.47	0.92	-.144 n.s.
	学習カードの作成	3.32	1.05	3.09	0.93	-.039 n.s.
	学習資料の作成	2.75	1.06	3.39	0.96	-.145 n.s.
	評価方法の設定	3.55	0.95	3.34	0.96	-.067 n.s.
	積極的相互作用	4.46	0.64	1.68	0.88	-.401***
	わかりやすく説明	4.25	0.68	2.33	1.05	-.341***
授業 実施 段階	できるための説明	3.98	0.80	3.04	1.11	-.246*
	約束事を守らせる	4.56	0.64	2.25	0.99	-.290**
	テキパキと行動させる	4.47	0.69	2.35	0.98	-.323**
	運動量の確保	4.37	0.69	2.61	1.05	-.465***
	学習成果の確認	3.90	0.79	2.87	0.98	-.348***
	児童同士の関りの促し	4.30	0.73	2.52	0.95	-.330**
	学習カードの活用	3.41	1.02	2.91	1.03	-.249*

有意水準 \*p<.05 \*\*p<.01\*\*\*.01<p<.001

する苦手意識に関係なく実践状況が低い。学習カードや資料は「学習者の課題選択や活動後の評価活動を促進させるだけでなく、学び方の定着やグループでの活動の活性化、教師の指導改善へのフィードバック等の機能も有している」(吉野・細越, 2002, p.159)と述べられる通り、体育授業の一層の充実を図るためにも必要なものである。指導資料として指導案と学習カードや資料が提供されることがあるが、学習カードや資料を提供されても活用されにくいとすれば、その理由や対策をさらに検討する必要があると考える。また、教師に対する支援の一環として、教材や資料を提供するだけでなく、それらがなぜ必要なのか、授業でどのように活用することでどのような効果があるのかについても教師に説明し、教師の理解を促して、実践の定着を図る必要があるだろう。

#### <引用・参考文献>

- 日野克博・高橋健夫・伊興田賢・長谷川悦示・深見英一郎 (1996) 体育授業観察チェックリストの有効性に関する検討；特に子どもの形成的授業評価との相関関係分析を通して。スポーツ教育学研究, 16 (2) : 113-124.
- 加登本仁・松田泰定・木原成一郎・岩田昌太郎・徳永隆治・林俊雄・村井潤・嘉数健悟 (2010) 体育授業の悩み事に関する調査研究 (その1)；教職経験に伴う悩み事の差異を中心として。広島大学学校教育実践学研究, 16 : 85-93.
- 加登本仁・松田泰定・木原成一郎・岩田昌太郎・徳永隆治・林俊雄・村井潤・嘉数健悟 (2011) 体育授業の悩み事に関する調査研究 (その2)；悩み事の解決方法を中心として。広島大学学校教育実践学研究, 17 : 169-174.
- 木原俊行 (2011) 校内研究等の実施状況に関する調査の結果。大概達也代表「教員の質向上に関する調査研究」平成19~22年度プロジェクト研究調査研究報告書。
- 文部科学省 (2002) 子どもの体力向上のための総合的な方策について (中央審議会答)。  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chchuk/chukyo0/toushin/021001.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chchuk/chukyo0/toushin/021001.htm) (2008.12.10)
- 文部科学省 (2004) 平成16年度学校教員統計調査。  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/001/002/2004/index.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/002/2004/index.htm) (2008.12.10)
- 文部科学省 (2007) 平成19年度学校教員統計調査。  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/001/002/2008/1256658.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/002/2008/1256658.htm) (2010.1.8)
- 文部科学省 (2012) 教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について (中央審議会答申)。  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325092.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325092.htm) (2013.06.13)
- 文部科学省 (2013) 平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書。  
[http://www.recreation.or.jp/kodomo/handbook/e-book/\\_SWF\\_Window.html](http://www.recreation.or.jp/kodomo/handbook/e-book/_SWF_Window.html) (2014.05.25)
- 中井隆二・澤田あかね (2007) 小学校体育への取り組みに対する自己診断表作成の試み；反省の実践化として自己成長できる教師を目指して。奈良教育大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 16 : 31-39.
- 庭木守彦・坂下玲子・黒木未和 (1994) 小学校の体育授業における教師の自己評価。熊本大学教育学部紀要 自然科学, 43 : 79-91.
- 小河内淳司・坂下昇次・中村和彦・植屋清見 (1999) 小学校教師の体育および体育の授業に対する価値。教材研究に関する研究。日本体育学会大会号, 50 : 769.
- 大友智編 (2007) 小学校における体育授業プログラムの開発；ゲーム領域及びボール運動領域を対象として。教育改革・群馬プロジェクト 国立大学法人群馬大学・群馬県教育委員会共同研究第一部会 特色ある教育課程の開発 体育グループ平成16年度~平成18年度研究成果報告書。
- 大友智・群馬県小学校体育研究会調査委員会 (2006) 群馬県における小学校体育授業に関する基礎的研究；高学年を対象にして。群馬の学校体育, 52 : 33-47.

- 下條隆嗣・平田昭雄・福地昭輝（1996）小学校における教科書等の指導の困難さとその理由；現職教師による自己評価．日本教科教育学会誌，19（1）：39-47．
- 白旗和也（2013）小学校教員の体育科学習指導と行政作成資料の活用に関する研究．スポーツ教育学研究，32（2）：59-72．
- 高橋健夫（1992）体育授業研究の方法に関する論議．スポーツ教育学研究，特別号：19-31
- 高橋健夫・長谷川悦示・日野克博・浦井孝夫（1996）体育授業観察チェックリスト作成の試み；観察者の評価観点の構造を手掛かりに．体育学研究，41：181-191．
- 土田理・林眞平（2005）小学校教師の理科授業に対する苦手意識とその要因．鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要，15：57-64．
- 吉野聡・細越淳二（2002）学習カードモデル．高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖編著 体育科教育学入門．大修館書店：159-166．